

学界消息

一九五三年度

京大文学部史学科

卒業生及び卒業論文題目

国史学専攻

〔旧制〕

六波羅探題の変質過程
薬師寺金堂薬師三尊像

条約改正小論

明治中期の愛国主義

中世村落に於ける農民と地侍に関する一考察

北村透谷論

米騒動の一考察

平戸イギリス商館の失敗について

〔新制〕

近世に於ける丹後縮緬機業の発展

学界消息

平安遷都前後における政治過程の一考

察

中世末期における国人層の動向

永井荷風小論

近世に於ける灘酒造業の発展

中世国衙領の基礎的考察

和泉国大島庄大番舍人の中世的動向

幸徳秋水と初期労働運動

近世農村の構造変遷

東洋史学専攻

〔旧制〕

唐代に於ける發族系名族の一形態—特に

元氏、長孫氏についての考察

三階教の布施徧

巴蜀開国伝説についての一考察

康有為の歴史的な評價

前漢時代の商工業者について—特にその

社会的役割と抑商政策の意義

義和團事変について—清朝の崩壊と初期

的ナショナリズムの展開として

太平天国革命を必然ならしめた社会的条

件に関する一考察

泉谷 康夫

上野 公

久保 博一

橋本 光隆

藤本 康彦

八尾 幸江

芳村 治雄

脇田 修

〔新制〕

唐代禅宗の発展—四川の念仏禅

西洋史学専攻

〔旧制〕

アメリカ革命直前に於ける英本国の植民

地西部政策—一七六三年の「勅令」を

中心として—

清教主義の研究

ビョートル時代に於けるマニユフアクテ

ユアの形体—十七、八世紀ロシア社会

経済史への一試論— 並川喜代典

モリエールをめぐつて、かれの位置づけ

についての歴史的な考察 藤本 優

カロリング時代のグルンドヘルシヤフト

について—土地所有形態としての面か

ら— 西岡 豊

ルネサンスの概念に就いて

十九世紀初頭ドイツ精神の一角—アダ

ム・ミューラーを中心とした政治的ロー

マン派の課題— 長江 芳夫

帝国主義時代の海外投資に関する一考察

—デイスレイリによる運河株買収とそ

の前後—

笠沙 雅章

小野利三郎

岡田 光司

松村 正樹

山田 高吉

堀田伊八郎

中川 貢

兼子 秀利

衛藤 泰弘

狩野 直禎

上横手雅敬

坂田 庄司

戸祭 武

中塚 明

畑井 弘

増田 博

松尾 尊兌

山田 源行

池田 敬正

山田 高吉

松村 正樹

山田 高吉

ゲルマン商業の起源と発展

二月革命に於ける労働問題

共和党誕生期の問題——南北戦争前史の研究——

ドイツ市民社会と自由主義に關する一考察——E・T・A・ホフマンとH・ハイネをめぐる——

農業問題よりみたイギリス革命

「アカルイナの人々」研究

合衆国西漸運動に於けるフランティシヨンについての一考察

〔新制〕

北米植民地に於けるビュリタンの一考察

ローマ帝国に於ける都市制度の推移

一八四八年の二月革命

詩から哲学へ——古典アテナイ末期の精神史——

一八四八年のドイツ革命についての一小論——バーデンの場合——

〔旧制〕

地理学専攻

〔旧制〕

堀内 一徳
樋口 暘

篠田 潔

杉村 和子

長沼忠兵衛

吉住 治

安井 玄

園田 房子

磯田 和雄

手塚 晃

藤縄 謙三

柿尾 洋介

イネの分布と品種改良

アメリカ都市の発達

土佐紙の歴史經濟地理学的研究

浜縮緬の発生と展開

〔新制〕

阿蘇火口原の農村

京阪神地方に於ける電力資源について

大山原野の開拓に就いて

考 古学 専攻

現代日本考古学研究小史

戦国および漢代工芸の文様帯構成についての一考察

中国の明器

京大 国史 関係

国史会例会 二月一日(土)

關学史における二三の問題

尾服における領主層

誌史会例会 二月二五日(水)

初期労働運動における幸徳秋水

〔新制〕

阿蘇火口原の農村

京阪神地方に於ける電力資源について

大山原野の開拓に就いて

考 古学 専攻

現代日本考古学研究小史

戦国および漢代工芸の文様帯構成についての一考察

中国の明器

京大 国史 関係

伊藤 伸之

木下 良

松岡 直夫

矢守 一彦

押野 昭生

立入 哲

水田 昭夫

陳 顯明

金関 恕

星野 省吾

大月 明

山形 友郎

芳村 治雄

〔新制〕

阿蘇火口原の農村

京阪神地方に於ける電力資源について

大山原野の開拓に就いて

考 古学 専攻

現代日本考古学研究小史

戦国および漢代工芸の文様帯構成についての一考察

中国の明器

京大 国史 関係

国史会例会 二月一日(土)

關学史における二三の問題

尾服における領主層

誌史会例会 二月二五日(水)

初期労働運動における幸徳秋水

制九名である。この日、小葉田、柴田両教授、赤松助教授ほか卒業生・学生約四〇名が集い、これらの新卒業生の予餞会を行った。卒業生への祝賀激励の言葉に対し、各卒業生から今後の決意など互に交歓し、和氣あいあい裡に、六時過ぎ散会した。

京大東洋史関係

東方学術協会・自然史学会合同例会

ネパール・ヒマラヤ踏査報告 今西 錦司

東方学会例会 二月二十八日(土)

ヨーロッパに於ける東洋学の現状

アメリカに於ける東洋学の現状

山本 達郎

エリセエフ

大学院研究発表会 四月十八日(土)

隋末唐初の叛乱

同 五月十六日(土)

明代における儒仏融合について

人文科学研究所 開所記念公開講演会

五月十六日(土)

唐代史料の集成と冊府元龜

「家族」という言葉の意味

平岡武夫

清水盛光

〔旧制〕

地理学専攻

〔旧制〕

〔旧制〕

〔旧制〕

〔旧制〕

〔旧制〕

〔旧制〕

京大地理学関係

地理学談話会 三月六日

別記の通り卒業論文の発表会を行い、続いて卒業生の予備会を行った。(参加者四〇名)

地理学教筆巡見旅行

今年度の見学旅行はそのフィールドを暖国高知に求めた。織田教授・藤岡教授・吉田教官をはじめとして十六名の参加をみ、三月二十一日の夜大阪を船出した。高知大学地理教室の山崎・谷淵両助教授の懇切な御案内を忝くし、桂浜の自然美、十市村の野菜促成栽培、高知の和紙工場・城下町景観、龍河洞のエロージョン・弥生式遺蹟等その見聞は多岐にわたつて意義が深かつた。二十三日朝高知で解散後、大部分の者は宇和島・松山を経由して新居浜に赴き、住友財團によつて創められた新居浜コンビナートとも呼ばれるべき総合工業地帯を見学した。とりわけ、蒸風呂のような別子銅山坑内での審きな視察は又とない貴重な印象であつたと思う。

京大考古学関係

考古学談話会 三月一二日午後一時 於学友

学界消息

会館 卒業生予備会

滋賀県野洲郡祇王村宮山古墳発掘、

滋賀県の依頼により、樋口隆康・金関恕・小野山節三名が従事。二月一八日—三月五日。

京都府相楽郡高麗村大塚山古墳発掘

鉄道工事のため石室露出、破壊。緊急に整理調査をす。樋口隆康・藤沢長治・林巴奈夫・金関恕・小野山節五名が従事。三月二七日—四月四日。

京大民俗学会彙報

約一年半ほど例会を休んでおりましたが、昨年十二月から、左記により、再出発いたしました。

例会 一二月九日午後七時、於京大薬友会館

神職の地位について 萩原 龍夫氏

例会 二月六日午後六時、於京大薬友会館

地頭家の族団祭 竹田 聰洲氏

熱田信仰について 井上 頼壽氏

会員消息

新入会員(復活会員を含む)

石原道博

位野木寿一

植村雅彦

上田宏範

大阪市立大学

附属図書館

大井ミノブ

笠石隆秀

河野文麿

河村盛一

金子功太郎

河原由郎

木代修一

木村武夫

大阪市住吉区杉本町

栗原明信
桑田六郎
小糸伸一
小玉新次郎
小林尊志
西京大学文学
室科歴史学研
佐和隆研
齊藤恒清
渋谷有教
清原宣雄
聖心女子大学
図書館
滝川政次郎
高橋邦彦
田中豊治

三
一
京都市右京区桂市の前町

東
京
都
涉
谷
区
宮
代
町
一

田中勝蔵
檀上安男
中部よし子
西山松之助
日本女子大学
史学研究室
布目潮凧
野上都志江
浜口友三郎
馬場憲三
平田嘉三
古谷俊夫
別枝篤彦
堀田伊八郎
松永雅生
前嶋信次
毛利久

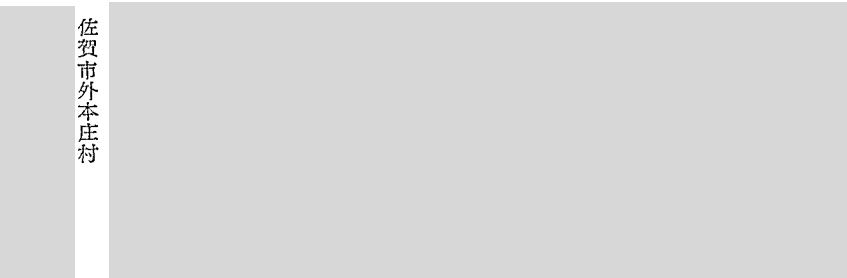
東
京
都
文
京
区
高
田
豊
川
町

伊藤祐昭
有賀鉄太郎
足利惇氏
井島勉
白井二尚
小川環樹
重沢俊郎
高田三郎
長尾雅人
西谷啓治
野間光辰
松尾義海
松平千秋
吉川幸次郎
村田治郎
京都大学工学
部建築学研究
室
堀江保蔵
秋宗康子
菊竹 弘
伊東多三郎
岩沢愿彦

奥野高広
笠原一男
金井 円
菊池武雄
菊地勇次郎
小西四郎
齊木一馬
佐藤進一
杉山 博
田中健夫



辻彦三郎
新田英治
花田雄吉
宝月圭吾
村井益男
桃 裕行
弥永貞三
山中 裕
山本武夫
四田 直
佐賀大学
越智重明
八木法忍

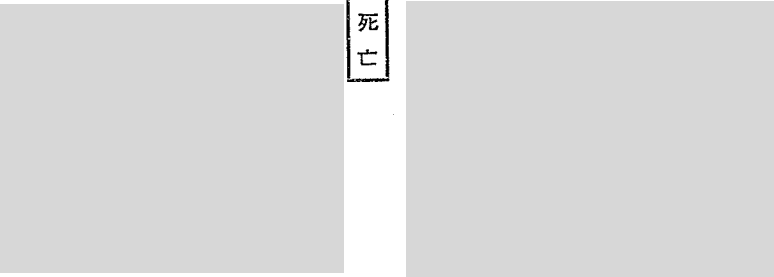


佐賀市外本庄村

狩野真禎
竺沙雅章
有山勝隆
大村四朗
岡本 仁
松井迪夫
北村篤太郎
藤原良裕
池内 宏
木島弥二
田口聖炯
定 惠苗
塩見高年
堀 朋近
藤田五郎
向井芳彦

會員死亡

右の會員諸氏は、逝去されました。こゝに謹んで哀悼の意を表します。



III 編 集 後 記 III

三五巻の完結が少しく遅れたために、この号の發刊にも響いてきましたが、いま三六巻一号を送ります。既に次号の編集も終り、年末の大会までには三六巻を完結する予定です。史林の出版についてのいろんな条件も次第に好転し、委員一同張り切つてゐるわけです。その意気込みは、しぜん史林の内容にも反映していつてゐることは、本号の豊富な内容をみていただければ分ると思ひます。

けれども、たゞ一つ残念なのは、史林の出版が不規則であつた頃に、会費の滞納が尨大な額に上つてしまつてゐたことです。さいきんこの滞納会費の回収は、どんどん進んでいますが、いま一そう会員の皆様の積極的な御協力を切にお願いしたいと思ひます。

それから、こんごさらに会員相互の連絡を緊密にしたいと考へ、会員消息欄を設けるこ

とにしました。入会、退会、転勤、動靜等々をその都度ぜひお知らせいたゞきたいと思ひます。また、学問の發展のために、他の諸学会との提携にも努力してゐます。そうしたなかで、史林と史学研究会の發展のために、会員の皆様のいろんな御教示、御批判や、御協力をわれわれは切望してゐるわけです。

(門協)

御 願 い

史林及び史学研究会の直接の事務運営は、次のような分担で行つております。史林及び史学研究会に関する御批判や御希望を、なるべく多く寄せて下さる様に御願ひ致します。

- | | |
|------|------------|
| 編集主任 | 赤松俊秀 |
| 編集委員 | 池田 誠 (東洋史) |
| 同 | 石川栄吉 (地理学) |
| 同 | 越智武臣 (西洋史) |
| 同 | 門脇禎二 (日本史) |

100

- | | |
|------|------------|
| 同 | 藤沢長治 (考古学) |
| 庶務主任 | 佐伯 富 |
| 庶務委員 | 河地重造 (東洋史) |
| 同 | 林巴奈夫 (考古学) |
| 同 | 三吉 希 (日本史) |
| 會計主任 | 藤岡謙二郎 |
| 會計委員 | 瀬原義生 (西洋史) |
| 同 | 末尾至行 (地理学) |

| |
|--|
| <p>一九五三年五月一日 印刷 一九五三年五月二〇日 発行</p> <p>定 価 百 円</p> <p>史 林 (第三六巻、一号)</p> <p>京都市左京区吉田本町 京大文学部内</p> <p>発行所 史 学 研 究 会</p> <p>振替大阪一四五五六番 京都市下京区七条御所ノ内東町三九</p> <p>印刷所 中村印刷株式会社</p> |
|--|